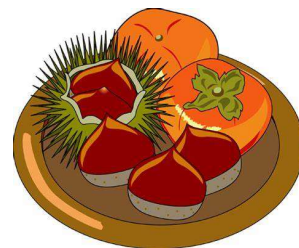


1 実りの秋

令和5年度も半分が終わり、「後期」に入りました。

『実りの秋』、これまで積み上げてきた努力の成果が徐々にあらわれてくる頃です。「まだ努力が足りないのでは」と感じている皆さん、いきなり大きなことを成し遂げようと意気込まずとも、まずはすぐ実行できる小さなことから始めて、コツコツと積み重ねていきましょう。



何度も繰り返しますが、まさに『微差は、大差』です。

2 “自分事”で仕事を進める「課題変換」

最近読んだ本のなかから、「“自分事”で仕事を進める「課題変換」という内容の文を一部紹介したいと思います。

行動の自主性を生み出す一番の秘訣は自分なりの目標や課題、夢を持つことです。そうすれば、「自分でやろう」という意識が高まります。

課題というのは、やはり自分で設定するのが一番よいのです。脳は、「自分の課題だ」と実感したときに初めてやる気を出します。

「まだ宿題やってないの？」小学生の頃、お母さんにこう言われた人も多いのではないのでしょうか。そしてそう言われるほど、やる気がなくなってしまったのではないのでしょうか。実はそんなときほど、この「課題変換」が必要だったのです。お母さんに言われたからやっているという他律の課題を、「しっかり宿題をやれば僕は勉強がわかるようになり、将来の夢である職業に就ける」という自律に変換することで、前頭葉の回路が「自分からやろう」という意識に切り替わります。

こうした変換作業は、そんなに手間がかかるものではありません。私自身、学生の頃から自律、他律のバロメーターをずっと持っていたと思います。今でも時々、仕事の現場で「ああ、本当はこういう仕事はやりたくないな」と思うことはあるのですが、そう考えてしまっただけでは効率よくありません。そこで、ちょっと視点を変えてみる。言い換えれば自律的に行動できるような何かしらの視点を脳に与えてあげることが大事だということです。すると、さっきまでやりたくないと思っていた仕事が、前向きにこなせるようになってきます。

もちろん、どうしてもやりたくないことだってあるでしょう。何もかもを課題変換することが望ましいわけではありません。自律的に行動できるような視点を見つけるため、普段から「この課題はどうすれば自分の課題になるのか」という、自分自身の「成長の基準」を確立しておくことが大事なのです。

(茂木健一郎著「結果を出せる人になる！『すぐやる脳』のつくり方」から)

3 科学技術高生の評価高し

3年生の就職試験の結果が続々と届いています。科学技術高校で「本物のチカラ」をつけてきた皆さんを、企業の採用担当者の方々が大変高く評価してくださっているという報告を聞き、大変嬉しく誇りに感じています。

また、進学を目指している皆さん、今が踏ん張りどころです。次回の校長だよりで、「努力と成果の関係」について紹介させていただこうと思います。

自分の可能性を信じて、『未見の我』を見つけにいきましょう。